



今こそ笑顔です

以前、「青少年育成センターだより第33号」で“笑顔の効用”というテーマを取り上げました。その時に“和顔施”「わがんせ」（明るい笑顔、優しい微笑みをたたえた笑顔で接する）を紹介し、家族や職場、地域の人に笑顔で挨拶をしましょうと提案しました。ここでもう一度笑顔について考えてみましょう。

A校長が着任して2ヶ月が過ぎた頃でした。昼休みに4年生のM子とこんな会話をしました。

「校長先生っていいよね」「どうしてだい？」「だって、校長先生はいつもニコニコしているでしょ。それって、いつも嬉しいことがあるってことでしょ」

「と、とんでもないよ。校長先生の仕事はとても大変で、辛いことばかりだよ」

「じゃあ、どうしてニコニコしているの？」

「どうしてって、辛くて嫌なことが多いからニコニコしているんだよ」

「なにそれ、バ～カみたい」

「M子ちゃん、あなたは勘違いしているよ」「何が、ですか？」

「M子ちゃんは嬉しいことや楽しい時だけニコニコするということ？」

「誰だってそうでしょ。苦しい時や悲しい時は皆泣きたくなるし、暗い表情になるでしょ。ニコニコなんてできないわよ」

「そこなんだよM子ちゃん、校長先生の言いたいところは！」

と言って、M子に質問をしました。

「苦しい時や悲しい時に暗い表情をすれば、その苦しさや悲しさはなくなるの？逆でしょう。それを大きくしたり、新たな苦しさや悲しさを呼び込んでしまったりするんだよ。M子ちゃんは『泣きっ面に蜂』という諺を知っているでしょ。それはそのことを言っているんだよ」

「だから、M子ちゃん！苦しく悲しい時にこそ、笑顔だよ。作り笑いでもいいからニコニコすると気持ちが少し楽になるよ。そして、いつもニコニコしているとね、神様は『ああ、この子はニコニコが好きなんだ。それならばニコニコすることをいっぱい授けてあげよう』と苦しいことや悲しいことを消してくれるんだ」

すると、今度はM子が声を強めて言った。「お正月にやったかるた『笑う門に福来る』があることを思い出した！」

夏休みを控えたある暑い日に、M子の母親が校長室を訪れました。娘が最近明るくなったといいます。先日も些細なことで夫婦喧嘩をしましたが、娘が「ママ怖い顔！こんな時こそ、笑顔だよ」と真顔で訴えたといいます。

「学校のちょっといい話」 公益財団法人モラロジー研究所

今は、コロナ禍で私たちの笑顔が少なくなっているのではないのでしょうか。

出かけることや親しい人に会うことを控えるなど、我慢しなくてはいけないことがたくさんありますが、今はじっと我慢の時です。いつまでもコロナがはびこり続けるといことはありません。「明けない夜はない」と言われるように、やがて世界にも日本にも明るさが戻ってきます。コロナに負けないようお互いに笑顔で接し合って、人間の強さを見せたいものです。

「今こそ、笑顔です」 笑顔でコロナを吹き飛ばしましょう。

(文 責=青少年育成センター指導員 藤村)